

0240

1525

目次

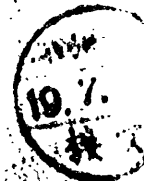


昭和十九年六月二十日

玄洋丸戦闘詳報

昭和十九年六月二十日對空戦闘

特設運送船玄洋丸



0347 1526

一 形勢
二 経緯
三 経過
四 結果
五 戦果
六 戦況
七 戦功
八 戦訓

目次

報告等
被害
現狀

〔目次終〕

一 形勢

敵ハ三月下旬バヲオ空襲以來及攻ノ氣勢漸次高マシ五月下旬
 ハ「ニーギニア」北西「アノ」島ニ上陸ヲ開始シ此方面ニ敵ノ機
 動部隊頻繁ニ出現セリ
 「メジロ」ニ在泊中ナリシ敵ノ有力ナル機動部隊ハ六月九日頃出港
 シ後所在不明ナリシ所六月十日「サイバ」ニテ「ア」ロ「タ」大官島
 等廣範圍ニ亘リ同時ニ空襲アリ十四日ハ敵ハ「サイバ」ニ上陸ヲ
 開始シ且ツ多数艦船ヲ以テ艦砲射撃ヲ加ヘ此ノ方面ニ敵ノ有力
 ナル機動部隊四及至五群行動シ「アル」ト明トナレリ
 味方ハ五月二十日「あ」號作戦部隊ヲ編成サレソノ基幹タル
 ベキ第一機動艦隊ハ「タウイ」タウイ」泊地ニ待機シアリタルモ戦機熟
 スルニ及ビ六月十三日「タウイ」タウイ」ヨリ「ギヤラス」ニ前進六月十五日「ギ
 ヤラス」ヨリ出撃西太平洋ニ進出セリ

二、計画

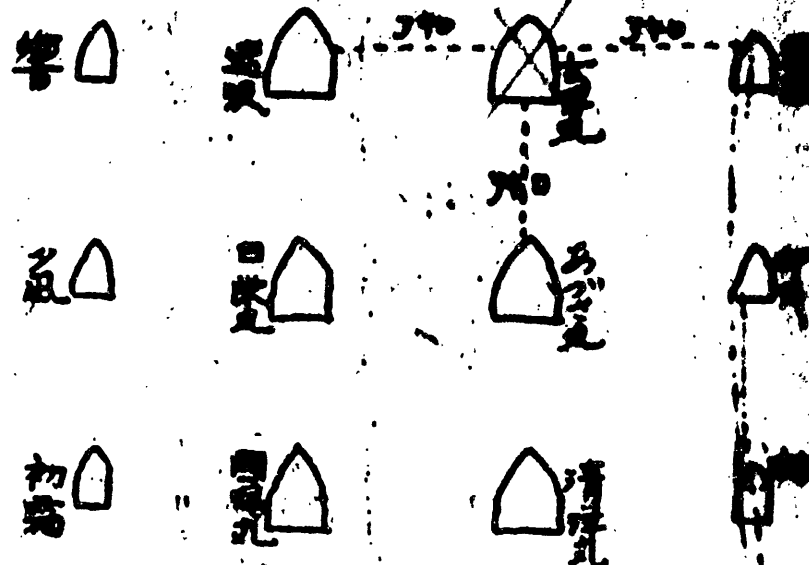
機密機動部隊命令作第六七號及第六八號所定

三、経過

(1) 玄洋丸、第一機動艦隊所屬シ、あづみ丸、雷風、浦風ト共ニ、あづみ丸作戦部隊第二補給部隊トシテ、命ニ依リ、六月十五日、八三〇キヲラ区海地出陣、十五日、八四〇頃、巨島(北十二度〇分、東三二度〇分)ニ於テ、第一補給部隊ニ合同、翌十八日、七三〇頃、速吸ニ合同、戸島(北一四度四〇分、東一二四度二〇分)ニ於テ待機セリ、同日、一五二五頃、更三名取ト合同、シタルモ、同艦、翌十九日、五一五頃、分離、マニラニ向ヘリ、十九日、二二二〇頃ニ至リ、補給部隊ハ北一五度二〇分、東經一三四度四〇分ニ進出スベキ命ニ接シ、翌二十日、六〇〇頃、地島着、燃料補給ノ準備ヲ完成、待機シ、アリタル所一〇〇〇頃ニ至

リ味方本隊ニ合同大和ニ対シ戦電給油ヲ行フベキ旨命令
アリタルヲ以テ同艦ニ近接ヲ試ミタルモ本隊ハ高速カニテ西
航ヲ續ケツアルヲ以テ概ネ艦隊航速方向ニ續航セリ
一五四五ニ至リ急遽西方ニ退却セヨト命令ニ接シ概ネ補給
部隊ハ合同マ、全カ約十五節ヲ以テ西方ニ退却セヨトモセ。
頃速ニニ甘度方向ニ本隊ヲ見失ヘリ
一七三五頃ニモ。度速距離ニ敵機十六機北上スルヲ認メタルヲ以
テ直チニ總員配置ニ就キ対空戦闘用意ヲナス間モテ又ニ
四。度方向ニ十九機西方ニ飛行シツアルヲ認メ各艦概ネ三
〇〇米ニ散開併機セリ當時陣形左ノ如シ

0381



(註)

第一補給部隊

理喉
 日榮丸
 固本丸
 清血丸

學初編卷五

第二補命部陳

玄神丸 五ツ元 聖威 明

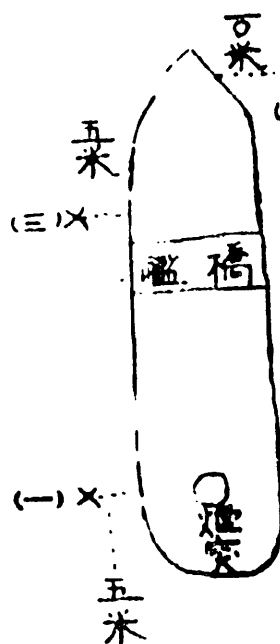
(附錄)

二敵機來襲陳八各艦

概不針路三。慶金力

運
轉
ナ
リ

七四五〇度方向より。度方向上。味方部隊ノ射撃セ
 ル炸裂。砲煙ヲ認ム。七五〇度方向ヨリ補給部隊
 ニ近接スル敵機十六機ヲ認メタルヲ針路。度トナシ待機シッ、
 アリタル所敵機ハ後方ニ廻リ近接シ来ルヲ以テ之ニ対シ射撃ヲ
 開始セリ。敵ハ三機編隊トナリ高度四〇〇米附近ヨリ降下向
 約六十度ニテ急降下主トシテ給油艦ニ対シ鋭撃ヲ行ヒツ、爆
 弾ヲ投下北方ニ進退セリ。本船ニ来襲ノ三機ハ各機一弾宛
 投下左圖ノ如ク命中セリ



戦艦室左舷ノ至近彈(第一彈)ニ依リ機械停止シ機械室浸水
 第三彈ハ水煙全ク艦橋ヲ蔽ヘリ其ノ後敵機ハ尙附近ニアリ
 タルモ未ダ襲スルモノナク一ノ頃上空ニ敵機ヲ認めザルモ一ノ頃
 機械ハ激震ト彈片約四十個命中トニ依リ大破全ク復旧
 見込ナク直ニ被中ノ航準備ナシあづナシテ電航セシメ
 ント決意シ極力機械室ノ浸水速防ニ努メタルモノ一ノ頃ニ
 ハ浸水量約一ノ頃ニ達シ漸次増加シツナリタリ加フルニ敵
 艦隊ハ概ネ東方約一五〇哩ニテ此ノマナレバ概ネ二十日
 〇ノ頃ハ敵艦艇ト交戦スルノ止ムナキニ至ルモノト判断シ
 果テ補給部隊全部ニ及スコトヲ慮ル由断念シ自沈スル
 決意シニ五退船用意ヲ命シ秘密書類、兵器ノ処分ニ着
 手シ駆逐艦卯月ヲ右舷ニ横付セシメ同艦ニ対シ蒸氣アル迄
 燃料ヲ補給セリ(約一二ノ頃)二三ノ頃退船準備完了セル以

4

iv

5

2880

9891

午前											
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	六〇
三二〇	三〇五	三〇〇	二五〇	二三〇	二二五	二一〇	二〇〇	一五五	一五〇	一四三	一四〇
卯月横付ヲ離ス	總員移乗終了	機械室内金子并ノ閘ヲ船内注水ヲ始ム	軍艦旗ヲ降下	總員集合指揮官退船ニ際シ訓示	秘密圖書秘密関係書類処分終了	卯月石舷横付ス	秘密圖書秘密関係書類処分始ム	總員退船甲意	被曳航準備完成	被曳航準備ヲナス	打方待テ
											収機ノ至近彈ニ依リ機械故障航行不能ナル

認

人 (註)
 A B E F
 14-24H
 14-4E
 八
 補
 子
 定
 地
 典



玄洋凡行動機要圖 135E
(海圖第212號1:100,000)

0389

1538

四、今達報告等

電信

月日時刻	発信者	着信者	信文
六一三〇	P	ITB 2TB 6PA 100B	機密第一三六四番電
六一三八	P	ITB 2TB 6PA 100B	機動部隊電令作第一六號 第一補給部
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	隊第二補給部隊二八間付機トセ
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	機密第一五七七番電
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	電令作第一四六號
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	あ號作戦決戦用意
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	機密第一九二〇番電
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	第一第二補給部隊ハヒ失ヘテ八八二進
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	出待機音
六一三六	P	ITB 2TB 6PA 100B	機密第一五三〇番電

7

[illegible]

1680
0391
1540

六二〇	六二〇	六二〇	六二〇
不明	不明	不明	不明
本船	本船	本船	本船
速吸	速吸	速吸	速吸
状況知ラサレ度シ	何	主隊ニ合同スル如ク行動サレテハ如	通報ヲ黑補給要領 一供給艦ノ占位々置候今 二区分大和能代及駆逐艦三八五 洋丸武蔵及駆逐艦四八速吸 48あづき丸ノ清洋丸駆逐艦ノ区 分ハ司令官所定 三要領戦艦横縦曳洋艦以下 兩舷横曳 四搭載量 満載

8.

六〇。二五五	速	吸	各	艦	艦隊ハ二六節ニテ西航ナリ 敵艦
六〇。二六四	速	吸	各	艦	速吸ヲ基準トシテ距離所隔五新 ニ開ケ針路二七〇度 速力一四節
六〇。二六五	速	吸	各	艦	二七五ヨリ左ヨリ補給艦ヲ 惡風速吸ノ左 艦初霜ハ玄洋 丸ノ左右補給量満載 補給針 路九〇度
六〇。二七〇	速	吸	各	艦	補給ヲ止メ西方ニ避退ス
六〇。二七五	初	霜	各	艦	二七〇度方何敵艦行機発見(其航)
六〇。二八七	本	艦	速	吸	我航行不能 電航ニ備フナシ置ケ
六〇。二八五	本	艦	速	吸	我航行不能 電航ニ備フナシ置ケ

9

1543

五、戰果及被害
(一) 戰果
(二) 被害

補給部隊
三機墜

[illegible]

至近彈三發ニヨリ、敵震ト約四。個ノ炸裂、彈片トニヨリ機械大
破、機室噴火、航ヲ全然不能ニ陥リ、アゴニシテ曳
航ヲ試ミ、夕生敵艦隊トノ距離近ク果テ補給部隊全部ニ
及スヲ恐レ、自沈ニ至ル迄ノ被害状況左ノ如シ

(一) 船体

1. 彈片ニ依ル舷側外板ノ破孔
イ右舷前部左舷中部水線上ニ若干ヤリタルモ同所ハ重
油ヲシラニシテ数量不明
2. 左舷後部水線上無數ニシテ機械室ノミニテモ約四。個
ノ破孔ヲ生ジ、大十センチハ輕ニ。握位ナリ
3. 彈片ニ依ル上部構造物
艦橋下左舷諸室ニ輕五。耗ノ破孔五

9680

1545

(一) 機銃
機銃、夜、上甲板二機三主銃位ノ破孔五
機銃空中爆、折斷セラル以外ナシ

(二) 機銃
主銃増補冷却器
散弾二、全機銃ハ主銃ニ分裂飛散

2. ビルコ射撃清水機銃
主銃カハ機銃主銃車落下ニ依リ大破、起動器ハ約十米
主銃ニ中散

3. 汽動用ビルコバースト機銃
ビルコ管折損、取付部離脱

4. 消火機銃
破損約一米移動

4680

1546

5. 金子弁嘴子
 取付部ヨリ切損海水噴出
 6. 潤滑油部
 唧筒取付部離脱
 7. 下部金子弁嘴子
 接合部切損海水猛烈ニ噴出
 8. 其ノ他
 各部激飛彈片ニ依リ移動又ハ無數ノ破孔ヲ生ゼリ
 又機軸室左舷外板ハ約四〇個ノ彈片破孔ヲ生ズ
 9. 機軸室ノ浸水量約一〇〇噸ニシテ尚漸次増加シツ、アリ
 戦死者 ナシ
 軽傷者 ニ

11.

我が兵力ノ現状

七
功績

乗員減私奉公ノ念ニ燃エ特設艦船ニ類例ナキ日夕ノ
猛烈訓練ニ依リ戦斗ニ當リテハ泰然自若トシテ敵機ヲ邀
撃シ其ハ心膽ヲ寒カシメタル功績大ナドモ機械ノ大破
依リ自沈ノ止ムナキニ至レルハ眞ニ申譯ナキヲ痛感シソ

八
戦訓

敵艦爆ハ三機編隊ニテ後方ヨリ追跡シ高度四〇〇米附
近降下角六〇度附近ニテ急降下シ約一五〇米附近ニ在
テ各機一個宛投下セリ且ツ投下前後ニハ銃撃ヲ行ヒ緩
慢ニ上昇シテ直角ニ退退セリ

敵爆彈ハソノ炸裂状況ヨリ見ルニ運動信管ヲ使用シテ
 敵機ハ急降下中本船後銃彈ヲ回避スルガ如キ飛行ヲナシ
 ヲリ射撃ヲ猛烈ナレバ敵機ハ近迫ヲ遂巡スルモト認ム
 敵機投下セル爆彈ハ爆發ノ状況及各艦自撃ヲ綜合推察
 スルニ二三〇キロ爆彈ト推定ス又後銃彈ハ十三挺ト推定ス
 我々五挺後銃ハ射撃用トシテ極々有効ナリト認ム
 彈道明瞭ニシテ故障ナシ(発射彈數五六〇発)但シ射撃
 中射撃卓修正ハ射撃指揮官ヨリ號令ニ依ル修正及射撃
 旋回等自身ニ依ル修正ハ共ニ極々困難ナルヲ以テ次ノ如ク
 改造スルニ要アリト認ム
 改造要領
 現後銃側方又ハ後方ニ射撃卓修正装置ヲ設ケ之ニ
 12

優秀ナル観測員ヲ配シ射撃手ニ隨時任意ニ射撃手兵
 ヲ変更シ得ル如ク装置ヲ附加シム
 又航路油ヲ行フ特設運送船ハ作戦部隊ト行動ヲ共ニスル
 ヲ以テ兵装ヲ強化スルヲ要ス
 本船ハ短八種砲前後ニ各一門及船橋屋上左舷ニ二十五種後銃ニ
 聯装一基、ミニミテ作戦開始直前大鳳ヨリ二十五種後銃單
 装一基ヲ借用船橋屋上右舷ニ裝備セリ
 彈道ノ状況ヨリ自ルニ二十五種後銃三聯装又ハ二聯装ヲ片舷三基
 有シタリテ全機撃墜確實ナリト思方セラル
 又短八種砲ハ敵機ニ對シテハ全然射撃不能ナリシヲ以テ高角
 式十種砲ニ改造艦首尾各一門艦橋兩舷ニ各一門裝備スル
 ヲ要ス
 本船ノ無線兵器ハ短波送信機(商船固有)一長中波送信機

商船固有ニ九二式特設四受信機ニ九〇式電話ニ二號
 電話ニニシテ作戰部隊通信装置トシテハ極々貧弱ナリ
 重要通信ハ全部護衛駆逐艦ニ受信シ信號ヲ以テ通
 報マシアルモ時枝ヲ失スルコト多シ
 受信機ハ少ク共三乃至四台裝備スルヲ要ス
 暗號書ヲ少ク共駆逐艦程度ニ配給スルヲ要ス重要通信
 ニシテ暗號書ヲ爲毎度護衛艦ニ訳文ヲ依頼シ新自的
 達シツアルモ夜間及單獨行動場合ハ如何トモ致シ難
 状況ナリ
 兎張兵器ヲ増備スルノ要アリ
 本船ノ見張用眼鏡ハ二種ハ種各一七倍稜鏡四ナルモ十
 二種ハ主トシテ信号用ニ使用シ七倍稜鏡ハ指揮用
 或長用信号兵用トシテ各一使用シツアルヲ以テ要
 13

際見張用トシテ使用シ併ルモノハ僅ニ一個ナリ見張ハ
 特設艦船ノ生命ナルヲ以テ少ク共十二艘三八艘ニ十倍
 後鏡八個ヲ裝備スルノ要アリ
 船舶機関ハ全部タービンは式トナスヲ可ト認ム
 又セル機関ハ燃料ノ消費少ク且ツ発停簡便ニシテ
 極メテ便利ナレドモ平入不充今ナル時ハ故障續出シ且ツ
 震動ニシテ脆弱性アリ
 今次被害ニハ機本江ノ
 人員等戦斗航海ニ差支ナカリシモ至近彈ノ激震ニ依
 リ機械大破シ遂ニ自沈ノ止ムナキニ至ルハ眞ニ遺憾ト
 スル所ナリ
 電航給油目的トスル給油艦ハ臨時編制部隊トスルコトヲ
 補給戦隊ヲ編制シ置クヲ要ス
 今次作戦ニ於テ電航給油船ハ三個部隊ニ編制セラレ合同ノ

際ハ先任指揮官之ヲ指揮統制スルコトニ定メラレタリ
 從テ十七日巳未ニ於テ合同ノ際ハ玄洋丸指揮官之ヲ指揮
 シ亞朝連吸合同スルヤ速吸特務艦長之ヲ指揮シ全日夕
 刻名取合同スルヤ名取艦長之ヲ指揮シ翌十九日名取
 マニシニ面航スルヤ西ビ速吸特務艦長指揮ヲ執リ
 ソ間事前何等ノ打合モナク又何等ノ命令モナク合同ノ都
 度番号ニテ命令スル状況ニテ艦船番号ニ於テスラ実ニ西面
 變更セラレタリ
 又護イ艦ノ如キハ命令ニ定メラレタルモノニシテ實際行動ヲ共
 ニシタルモノハ六隻中僅ニ二隻ニシテ命令等モ交付スル機會
 ナク行動中錯誤ヲ来タシタルコト多シ特ニ白露清洋丸衝突
 白露航沈没セルハ誠ニ遺憾ナル事件ナリ 燃料補給就中
 曳航給油が作戦上如何ニ重要ナルカハ一般ニ来ダ認識
 14

不足ナリ
 特設運送船ノ配員ヲ強化スルノ要アリ
 玄洋丸ニ於テハ
 指揮官 大佐 (現)
 主計長 寺本尉 (現)
 主務長 小野尉 (召)
 軍機長 齋藤中長 (召)
 ニシテ哨戒長アルベキニ官ノ配員ナキヲ以テ指揮官ハ航海中
 文字通一陸モ出来ズ航海長期ニ亘ル場合ハ疲勞程度ニ
 達シツアリ
 又射撃指揮官ハ堂内務長(應召)之ニ當リ應召セラレテ
 始メテ射撃指揮官トナリタル状況ナリ
 軍醫科士官ノ配員ナク患者発生ノ場合或ハ防疫上遺憾

左記ノ如ク増員スルノ要アリ

分隊隊長
分隊長
分隊長

又下士官兵ハ大部分應召員ニシテ指導者少キ特設

特設運送船ハ現役兵タルヲ要ス

用器ヲ配給スルノ要アリ

本船ハ昭和十六年十一月海軍ニ徴用シドウェー山作戦以

来全作戦ニ参加シアリ

然ルニ應召器材ハ何等裝備シタルモノナク防毒面ハ論

消火器スラ無キ状況ニシテ昭和十九年四月佐世保ニ於テ

15.